



おいしい米 づくり情報

2025/04/30

第4号 育苗・移植 編

庄内総合支庁 農業技術普及課
Tel. 0235-64-2103

◎育苗後半も適切な温度管理と水管理で活力のある苗を植え付けましょう。

◎適期移植&適切な植付け深と活着後の浅水管理で初期生育の確保！

1 育苗後半の管理

温度

硬化期(1.5 葉)以降の温度の目安は日中15～20℃、夜間8℃以上です。

また、ムレ苗が発生しやすいステージです。遮光資材の掛けっぱなし、床土温度の過度な低下は、根の活力を低下させ、ムレ苗発生を助長するので避けましょう。

なお、移植1週間前からは、穏やかな夜間はハウスやトンネルを開放し、外気温に慣らしましょう。

灌水

朝のうち(床温がまだ低い時間帯)にたつぷり水をかけましょう。床土が白く乾いたり、葉が巻き始めたら部分的に灌水しましょう。ただし午後3時以降は灌水を避けましょう。

東北地方1か月予報 4/26～5/25 (4/24 仙台管区气象台発表)

東北日本海側の平均気温の**高い確率は50%**

特に**2週目(5/3～9)の高い確率は60%**

日中
15～20℃

夜間
8℃以上

硬化期(1.5 葉～)以降の温度管理

高温アラート運用開始

「あぐりん」で登録

高密度播種(密苗、密播)では特に注意！

- ①**苗が老化しやすい**ので、慣行育苗以上に高温を避ける。
- ②**苗の蒸散量が多い**ので十分に灌水する。
- ③**苗の生育が停滞する前に移植する**(葉数は2.0 葉、育苗期間は20 日が目安)。

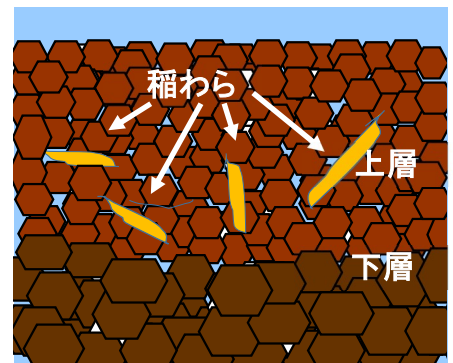
2 本当は重要な“代かき”

目的

田面を平らにして、漏水を防ぎ、土壌を膨軟にして、移植作業を容易にします。
1 回目の代かき(荒代かき)は碎土を目的に、2 回目の代かき(均平)は均平や稲株などの埋没を目的に行います。いずれも**初期生育の確保、除草剤の効果安定**に重要なことです。

作業のポイント

- ①代かき時の水量は土塊が9割程度見えるくらいです。水が多いと、土壌表面の様子が変わりにくく均平作業がしにくくなるとともに、稲わら等のすき込みが難しくなります。
- ②砂質土壌では代かきを丁寧に行って漏水を防ぎます。
- ③ただし、代かきを過剰(作土すべてが羊かん状)に行くと、土壌還元が強まり、活着や根張りが悪くなり、初期生育の確保が困難になります。今年は特に耕起時に柔らかい圃場が多く酸素が少ない状態です。過剰にならないように注意しましょう。
- ④土塊は上層は細かく、下層が粗い状態が理想です(右図)。
- ⑤代かき時期は、移植2～3日前が理想です。土壌の性質に合わせた作業計画を立てましょう。



代かき後の土壌断面

3 適期移植と適切な植付けで初期生育の確保

移植時期

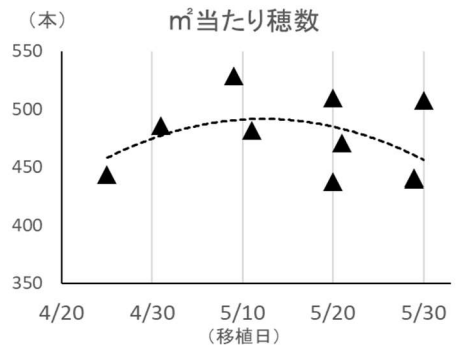
移植適期は5月10日～20日頃です。遅れると穂数の確保が難しくなります(右図)。

移植は天候が温和な日に行いましょう。低温や強風の日の移植は、植え傷みのダメージが大きく、活着が遅くなります。

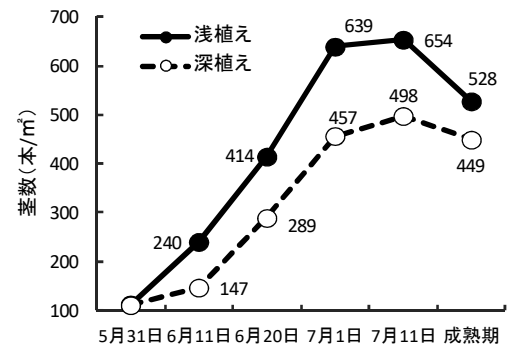
植付け

栽植密度は坪当たり70株程度、植込本数は1株当たり4～5本(m^2 当たり植付本数100本前後)が基本です。極端な疎植は、天候不順の影響を受けやすく、茎数不足や精玄米粒数歩合低下等のリスクを高めます。

植付け深は3cm程度とします。深植えにすると、生長点付近の温度が上がらず分げつ発生が抑制され、茎数が増えません。植付け深を確認し、丁寧に植え付けましょう。



つや姫の移植時期と穂数の関係
(水田農業試験場 H19～21 年)

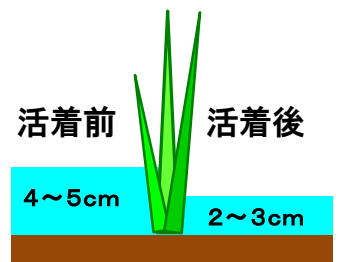


植付深の違いと茎数の推移

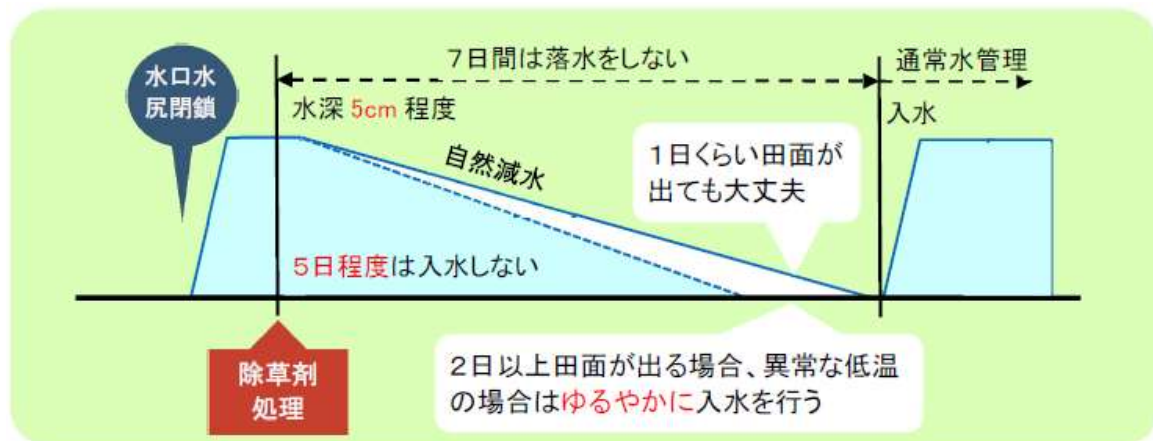
4 移植後はメリハリある水管理で初期生育促進

- ①活着するまでは水深 4～5cm にして、苗を保護し、新根の発生を促します。
- ②活着したら(新葉が見えたら)、水深 2～3cm の浅水管理に切り替え、分げつ発生を促します。強風や低温が続くときは、(H27 普及課調査、浅植え 2.5cm、深植え 4.7cm)一時的に水深をやや深めにして稲体を保護しましょう。
- ③ワキ防止のため、一発処理除草剤を散布する前に、水交換または軽い田干しを行いましょう。
- ④除草剤を散布した後、7 日間 は 止水し、落水・かけ流しは控えましょう。

今年は乾土効果が期待できない状況です。初期生育を確保するため、浅水管理・ワキ対策を徹底しましょう！



活着前後の水管理



「スマートつや姫」を作付前から使ってみよう！

「食味・収量点検マップ」を確認し改善項目を振り返ろう！



専用 HP へアクセス

お問合せは農業技術普及課またはお近くの JA 営農指導員へ

決して耕起作業は焦らずに！
春季農作業事故防止運動

4/1～6/10

農機の始動前点検

トラクターの転倒・転落防止